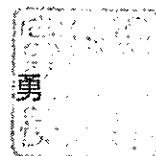


栗 建 第 1023017 号
平成20年10月23日

国土交通省道路局長 殿

栗原市長 佐 藤



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

このことについて、先に照会がありました内容については、別紙のとおり栗原市の意見・提案を提出いたしますので、よろしくお取り計らいいただくようお願いいたします。

栗原市建設部建設課 千田
T E L 0228-22-1152（内線 520）
F A X 0228-22-0313
E-mail kensetsu@kuriharacity.jp

道路行政全般についての意見提案

① 道路行政全般についての改善すべき点、要望や提案など

栗原市は、平成20年6月14日発生した岩手・宮城内陸地震により、道路をはじめ河川やダムなど多くの社会資本が被害を受けました。大規模地震災害は、国民生活にも大きく影響を及ぼすものであり、ダムや河川が被害を受けた場合、例えば、電力や飲料水の供給に直接影響が生じるものです。都市の生活基盤となる電力、水道などのライフラインは、地方にあるダムや河川などの社会資本により成り立っており、この基盤を側面から支える役割を担っているのが地方の道路であり、災害に強い国土を創るためにも道路の整備は欠かせないものです。

このようなことから、新たな道路中期計画の重点目標として、大規模な地震など自然災害に強い国土づくりのための道路整備が必要と考えます。災害から国土を守ることは、都市、地方を問わず行政の最重要課題であり、そのための道路は、真に必要な道路と考えます。

なお、災害に強い個別施策としては、避難路等のバックアップ道路整備、孤立集落解消のための道路整備、橋の耐震改修、医療・福祉機関へのネットワーク整備などがあげられる。

次に、地方の道路整備のうち、広域幹線道路ネットワークの整備について提案します。

都市部と比較し地方の道路整備は、高速幹線や広域幹線のネットワーク整備が進んでいない状況にあります。また、地域の医療・福祉や消防・防災など行政の関わるサービス圏域は拡大する一方です。これからの少子高齢化社会を見据えた場合、益々このような安全・安心の分野に対応したサービスが求められます。

このため、広域圏の行政サービスに対応した地方の道路ネットワーク整備が必要と考えます。個別施策例として、高規格幹線道路の整備、広域圏域を連結する道路整備があげられます。

次に、参考として、市内の例を提案します。

栗原市内の国道398号は、平成20年6月14日発生した岩手・宮城内陸地震では、甚大な被害を受け、栗原市花山から秋田県境にかけ約25キロメートルが通行不能な状況です。復旧については、数年を要する状況となっております。

この国道398号は、栗原市花山温泉地区から宮城・秋田県境付近までは、30年の多くの月日をかけ改良整備をしてきましたが、秋田県側の大湯工区は10月10日開通したところであり、宮城、秋田の整備格差は広がる一方です。今回の震災被害を考慮し、局所的な改良整備を見直し、トンネル工法など根本的な安全・安心な道路に向け再検討すべきであると考えます。この道は、東北の太平洋側と日本海側をつなぎ、物流・産業・観光・文化・経済の各分野に大きく発展に寄与するものと考えます。

今後の道路行政についての意見提案

② ー1地域の現状と抱える課題

○現状

・市は、県内一広大な面積804平方キロメートルを有しており、道路ネットワークは、国道4号、国道398号、主要県道並びに、市道によりネットワーク構成されているが、市街地の渋滞や幹線軸ネットワーク機能が弱いため、病院、学校、新幹線駅など公共・公益施設へのアクセスに不便をきたしている。

特に、救急医療、消防・防災活動に支障をきたしている。

・平成20年6月14日発生した岩手宮城内陸地震により市内の道路、河川などの社会資本整備は、甚大な被害を受けており、復旧・復興まで数年の長い年月が必要とされている。

自然災害は、前触れ無く突如して発生し、住民の生命財産に大きな影を落とすものであり、予想が困難である。

今回の震災では、道路と共に、電気、電話、水道、下水道などのライフラインが甚大な被害を受けた。すべてのライフライン施設が道路の占用物として大きな関わりを持っている。

○課題

・地方の医療は、医師不足や経営不振による病院の閉院などで非常に厳しい現実にとらされている。市内の中核3病院と近隣の救急指定病院などへの道路ネットワーク（「命をつなぐ道のネットワーク」）の必要性は、救急医療はじめ、地域医療・福祉など各分野に大きく貢献するものであり、少子高齢化社会に伴う地方の身近で、最も重要な課題である。

地震や大雨などの自然災害や防災に強いまちづくりが喫緊の課題です。今後、発生が予想される宮城県沖地震や大雨洪水などの大規模自然災害に対応すべく社会資本整備が急がれる。

特に、道路の担う役割は大きく、緊急避難路、代替路線、老朽橋りょうなど災害や防災を意識したネットワーク機能の整備が必要です。

また、道路の復旧と併せ、電気、電話、水道、下水道などのライフラインの総合的な復旧対策が必要です。

今後の道路行政についての意見提案

②－2地域の目指すべき将来像

栗原市は、10ヶ町村合併後4年目を迎える。合併時の人口は、8万248人、平成28年の推計予測人口は、7万1千5百人と10.9%もの減少の一途をたどる。また、市の高齢化率は、30パーセントを超えており、県内の圏域では最も高い比率となっている。こうした人口減少による過疎化や高齢化の現状は、地域の抱える最も身近な話題である。

また、市は、面積804平方キロメートルと広大であり、旧10ヶ町村をぶどうの房のような形で結ぶクラスター型のまちづくりを目指しており、「市民が創るくらしたい栗原」を掲げ、平成19年度より「総合計画」を推進している。

地域の目指すべき将来像については、若者が定住でき、子どもたちが伸びのびと成長し、お年寄りが心安らかに暮らせる生活の環境づくりが都市部、地方部を問わず求められる将来象であり、市の総合計画は、この広大な市内を安全で快適に移動できる交通環境の整備を基幹施策とし、各地区の生活基盤の向上を図りながら、相互に繋がるクラスター型の生活拠点の形成を目標としている。

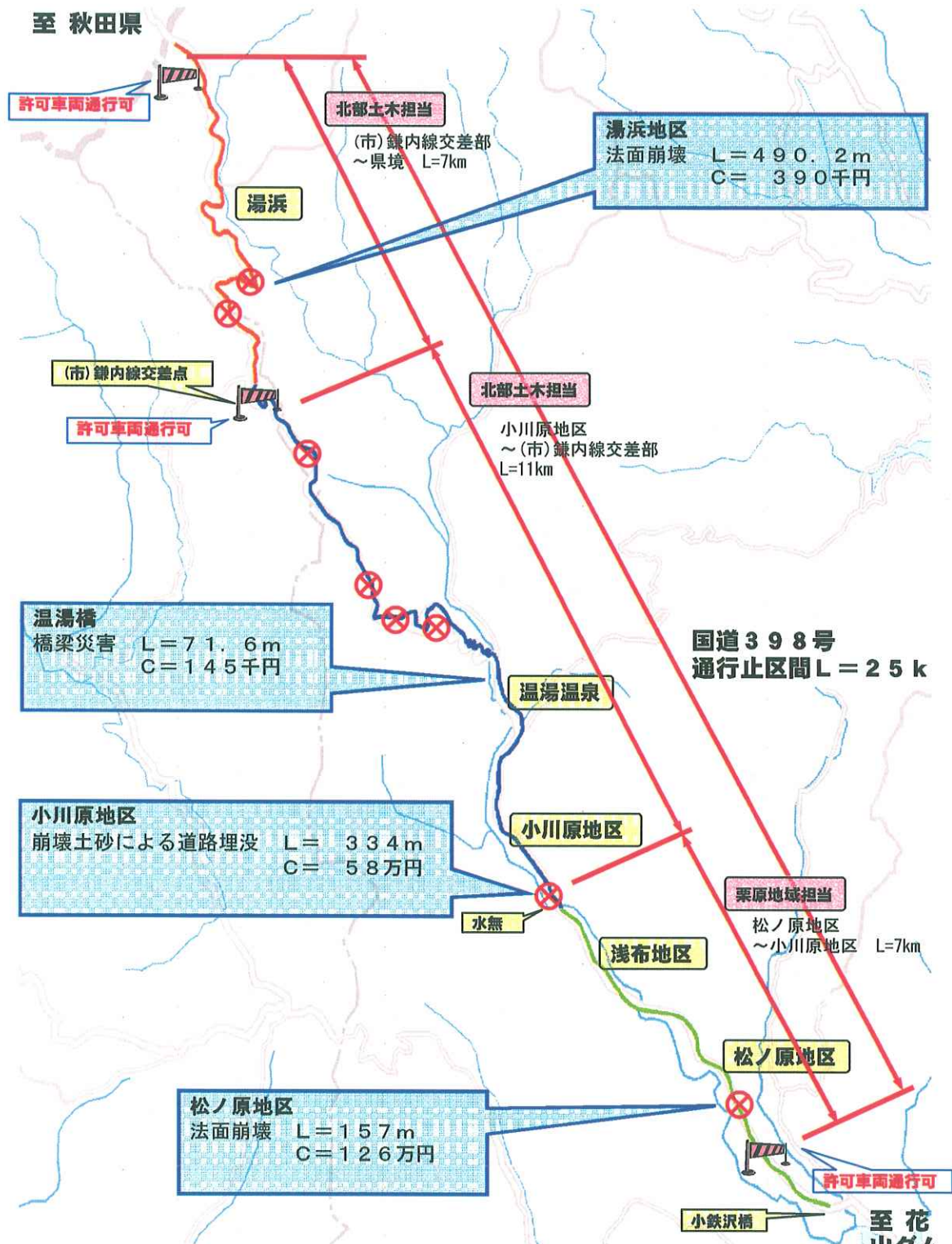
また、市は、都市部と比較し電車、地下鉄などの公共交通が発達していないため、公共交通の環境整備に積極的に取り組んでおり、住民バス、福祉バス、デマンド交通システム、そして近未来型の交通環境を構築するコ・モビリティ社会研究の実証実験(慶応大学と連携)などにより、道路網の整備と併せた交通環境の向上を目指している。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・地域の幹線道路整備事業 (国道4号築館バイパス事業、みやぎ県北高速幹線道路整備事業など)	・地方の産業振興や地域経済の発展をはかり、元気な宮城、元気な東北の地域づくりを目指す。 ・東北を横断する幹線整備は、地域の活力に大きな力となる。	・国道4号築館バイパスは、昨年1.8km暫定開通(全延長は、6.7km。)したが、渋滞解消の効果は低く、全線開通が急がれる。 ・みやぎ県北高速幹線道路は平成24年度開通を目指している。この完成する道路と接続する2工区、3工区の早急な着手が必要である。
・大規模な地震火災に強い国土づくり	・岩手宮城内陸地震で被害を受けた国道398号の災害復旧事業や災害防除事業 (栗原市花山地区、通行止約25km区間)	・大規模な自然災害などに対し、強い国土づくりを目指す。 ・岩手、秋田など近隣の市町村と広域連携を図ることにより、災害に強い地域づくりを図る。	国道398号の宮城・秋田県境付近は、30年の月日をかけ改良整備をしてきたが、今回の地震で甚大な被害を受けた。秋田県側との整備格差は広がる一方である。局所的な改良を見直し、トンネル工法など根本的に安全・安心な道路に向け検討すべきである。

6. 14岩手・宮城内陸地震 国道398号被災箇所(代表箇所)



※復旧延長、金額は申請時のものであり、確定したものではありません。

6.14岩手・宮城内陸地震 国道398号被災状況

箇 所	栗原市花山松ノ原地区	被災状況	法面崩壊
-----	------------	------	------

法面崩壊による国道398号寸断状況



崩壊全景



通行規制(松ノ原から温湯方向)



通行規制(温湯から松ノ原方向)



崩壊土砂による国道398号埋没



崩壊土砂



崩壊全景



崩壊土砂撤去・河道閉塞対策工事後の状況



箇 所 栗原市花山温湯地区

被災状況

橋梁災害(温湯橋)

損傷による養生状況



橋台の横断クラック



箇 所 栗原市花山湯浜地区

被災状況

法面崩壊

法面崩壊



路面クラック・陥没



6.14岩手・宮城内陸地震による国道398号被災状況

箇所図番号 ①



法面崩落による国道398号寸断

(花山字本沢松ノ原地内)

箇所図番号 ①



崩落による国道398号影響範囲

(花山字本沢松ノ原地内)

6.14岩手・宮城内陸地震による国道398号被災状況

箇所図番号 ①



法面崩落全景

(花山字本沢松ノ原地内)

箇所図番号 ①



現在の通行規制状況

(花山字本沢松ノ原地内)

6.14岩手・宮城内陸地震による国道398号被災状況

箇所図番号

②



国道398号沿い山腹崩壊箇所 河道の閉塞 国道398号水無橋から
(花山字本沢浅布地内)

箇所図番号

②



崩壊全景 国土交通省による河道閉塞緊急対策工事の様子
(花山字本沢浅布地内)

6.14岩手・宮城内陸地震による国道398号被災状況

箇所図番号

③



山腹崩壊土砂による国道398号埋没

(花山字本沢小川原地内)

箇所図番号

③



崩壊土砂の流出状況

(花山字本沢小川原地内)

6.14岩手・宮城内陸地震による国道398号被災状況

箇所図番号 ③



崩壊全景 国土交通省による道路埋没・河道の閉塞緊急対策工事の様子
(花山字本沢小川原地内)

箇所図番号 ③



緊急対策工事後の現在の状況 (花山字本沢小川原地内)

6.14岩手・宮城内陸地震による国道398号被災状況

箇所図番号

④



温湯橋付近クラック段差 温湯ゲート前

(花山字本沢温湯地内)

箇所図番号

⑤



国道398号沿い寒湯御番所被災状況

(花山字本沢温湯地内)

6.14岩手・宮城内陸地震による国道398号被災状況

箇所図番号 ⑥



温湯橋の損傷による応急養生

(花山字本沢温湯地内)

箇所図番号 ⑦



山間区間の路肩崩落状況

(花山温湯～湯浜峠区間)

6.14岩手・宮城内陸地震による国道398号被災状況

箇所図番号 ⑧



山間区間の路肩崩壊状況 (花山温湯～湯浜峠区間)

箇所図番号 ⑨



山間区間の法面崩壊状況 (花山温湯～県境方面 湯浜地区)

6.14岩手・宮城内陸地震による国道398号被災状況

箇所図番号 ⑨



山間区間の法面崩壊状況 (花山温湯～県境方面 湯浜地区)

箇所図番号 ⑩



山間区間の法面・国道398号崩壊状況 (花山温湯～県境方面 湯浜地区)